

# 平成30年3月期 第2四半期決算説明会

平成29年11月28日



イメージ情報開発株式会社

東証JASDAQ：証券コード 3803

## I グループ概要

- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



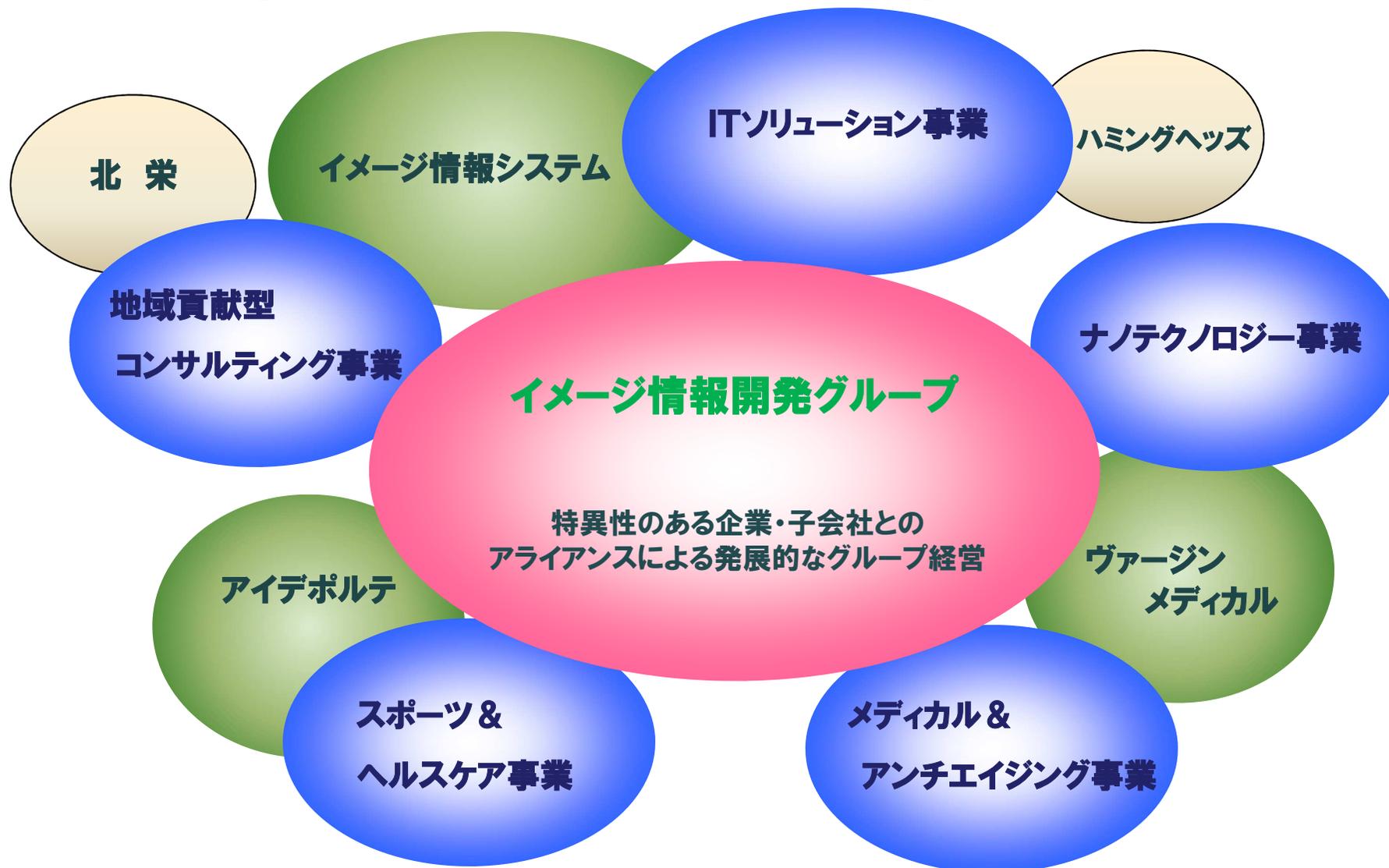
# イメージ情報開発株式会社 会社概要

【設 立】	1975年（昭和50年）10月
【代 表 者】	代表取締役社長 代永 衛
【資 本 金】	4億6,705万円
【事 業 内 容】	情報システムの企画・開発、保守・管理運営
【本社所在地】	東京都千代田区猿楽町 2-4-11 犬塚ビル
【子 会 社】	イメージ情報システム株式会社／株式会社ヴァージンメディカル／株式会社アイデポルテ
【沿 革】	昭和50年10月 会社設立 昭和51年 4 月 コンピュータ&イメージデータの複合処理事業を開始 昭和55年12月 本社事務所を東京都港区新橋に移転 昭和59年 4 月 システムインテグレーション事業に進出 平成16年 4 月 セキュリティサービス販売を開始 平成17年 9 月 インターネットデータセンター開設 平成18年 4 月 大阪証券取引所(現東京証券取引所)JASDAQへ株式上場 平成19年 5 月 本社事務所を東京都港区芝大門に移転 平成21年12月 イクオス株式会社（現株式会社ヴァージンメディカル）設立 平成23年 7 月 本社事務所を東京都千代田区猿楽町に移転 平成25年10月 株式を200分割 平成29年10月 新設会社分割によりイメージ情報システム株式会社設立 平成29年10月 エクストップエスオー株式会社（現株式会社アイデポルテ）を連結子会社化



# イメージ情報開発グループについて

「システム設計・構築を基盤にマーケティング機能を付加した総合サービスによる企業ビジネスの支援」、「自社製品の販売・サービス提供」、「特異性のある、子会社の育成、他企業とのシナジー」で構成します。



- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略

## ■ 株式会社北栄への債権に対する貸倒引当金を計上

当社は、当第2四半期連結累計期間において、株式会社北栄への債権全額に対して貸倒引当金315,125千円を特別損失に計上いたしました。同社は沖縄県において海砂の採取、販売を行っておりますが、大型案件の遅延や所有船舶の修繕により債権の回収が滞っていることから前連結会計年度において188,145千円の貸倒引当金を計上し、当社が保有する同社株式に対して投資有価証券評価損19,950千円を特別損失に計上しております。

当第2四半期連結累計期間におきましても、同社の事業環境は良好なもの、船舶の増設が実現できず、予定しておりました債権の回収が滞っており、回収可能性を合理的に説明することができないことから、会計監査人と協議した結果、同社への債権全額に対して貸倒引当金を計上するとの結論に至りました。現在は船舶が稼働しており、また大型案件に対する海砂の供給が平成30年には開始する見込みであることから、同社では船舶の増設の準備を進めており、今後も引き続き債権の回収に努めてまいります。



# バランスシート【連結】

【単位：百万円】

	平成29年3月期 年度末実績	平成30年3月期 第2四半期末実績	対前期末比	
			増減	増減率 (%)
資産合計	662	358	△304	△45.9
流動資産	222	229	7	3.2
固定資産	439	128	△311	△70.8
負債合計	276	281	5	1.8
流動負債	131	134	4	2.8
固定負債	144	146	1	0.9
純資産合計	386	76	△309	△80.1
負債純資産合計	662	358	△304	△45.9

- ✓ 流動資産：現預金 37百万円減、売掛金 40百万円増、短期貸付金 14百万円増
- ✓ 固定資産：貸倒引当金315百万円計上による減少
- ✓ 流動負債：買掛金 8百万円増、短期借入金 20百万円減
- ✓ 固定負債：退職給付に係る負債 5百万円減、長期借入金6百万円増
- ✓ 純資産：利益剰余金 308百万円減

# 中間期損益計算書【連結】



【単位：百万円】

	平成29年3月期 第2四半期実績	平成30年3月期 第2四半期実績	対前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	470	416	△53	△11.3
売上原価	417	357	△60	△14.5
売上総利益	52	59	7	13.9
販管費	74	53	△21	△27.9
営業利益	△22	5	28	—
経常利益	△20	6	27	—
純利益	△24	△308	△284	—

- ✓ 売上高：昨年度にあった大手取引先での大規模サーバ入替が終了し、商品販売が104百万円減、システム構築受注は24.6%の伸び、保守/運用並びにBPO/サービス分野は堅調
- ✓ 利益：営業利益、経常利益は利益確保も、北栄社への全債権315百万円を貸倒引当金に計上したことにより、純利益は284百万円減

## ■ セグメント別売上高

◎ 売上高 416百万円(前期:470百万円)

(単位: 百万円)

	コンサルティング /設計/構築	運用/保守	商品販売	BPO/ サービス	合計
平成28年3月期中間期	260	91	207	87	647
平成29年3月期中間期	225	50	109	83	470
平成30年3月期中間期	281	49	5	79	416
前年同期比	124.6%	99.3%	5.2%	95.0%	88.7%

### ◎コンサルティング/設計/構築

既存取引先からの継続受注に加えて新規取引先開拓により増加

### ◎運用/保守

29年3月期は株式会社アンダース連結除外の影響で大幅縮小、今期は堅調

### ◎商品販売

大型サーバ入替受注が27年4月開始、28年9月で完了

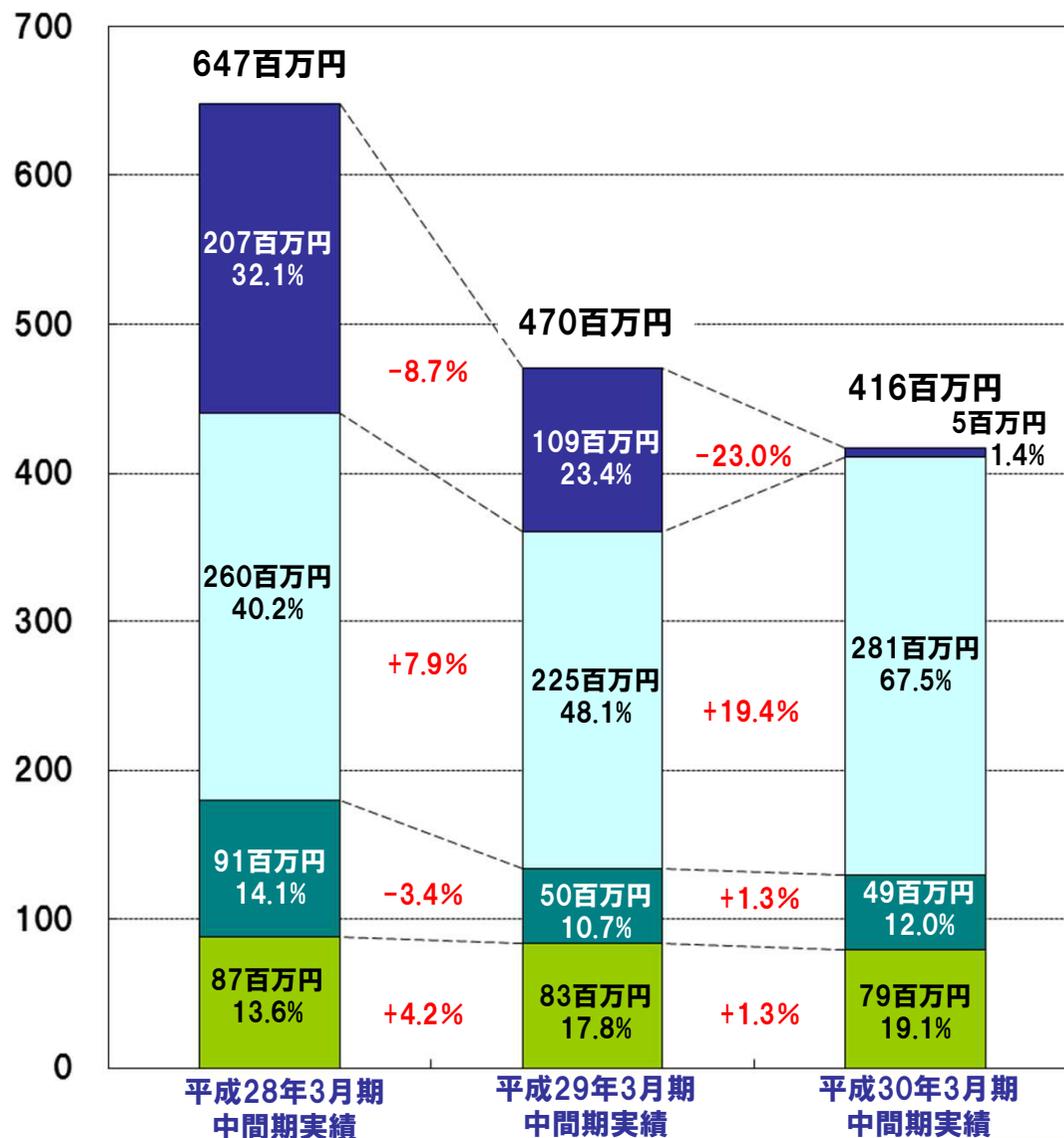
### ◎BPO/サービス

堅調に推移



# 売上構成【連結】

【単位:百万円】



## 商品販売

28年、29年度は大手取引先への大型サーバが大半を占める

## コンサルティング/設計/構築

一過性受託を除くと、順調に拡大継続

## 運用/保守

平成29年度の大幅減は株式会社アンダース連結除外の影響だが、現状維持傾向にあり立て直しが必要

## BPO/サービス

堅調に推移



## キャッシュフロー【連結】

【単位：百万円】

	平成29年3月期 第2四半期実績	平成30年3月期 第2四半期実績	対前期比 増減
営業活動によるキャッシュフロー	△29	△2	26
投資活動によるキャッシュフロー	31	△34	△66
財務活動によるキャッシュフロー	△15	△10	5
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△12	△47	△35
現金及び現金同等物の四半期末残高	99	65	△35

- ✓ 営業活動CF：税金等調整前四半期純損失 308百万円  
貸倒引当金の増加 315百万円  
売上債権の増加（CFは減少） 40百万円
- ✓ 投資活動CF：貸付けによる支出 23百万円  
※貸付金の回収による収入と相殺しています
- ✓ 財務活動CF：借入金の返済による支出 10百万円  
※借入れによる収入と相殺しています

- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



# 資本金の額の減少及び剰余金の処分

平成29年6月に実施した資本金の額の減少及び剰余金の処分の内容は以下のとおりです。



早期復配体制への移行

資本政策の柔軟性及び機能性の確保

単体の純資産の動き

【単位：千円】

現状	変動額	振替後
資本金 467,050	—	467,050
資本準備金 510,270	△506,111	4,159
利益準備金 2,000	—	2,000
繰越利益剰余金 △508,111	506,111	△2,000
利益剰余金合計 △506,111	506,111	0
純資産 375,402	—	375,402

- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況**
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



# 新設会社分割の目的と状況

## 当社の経営理念

変革を求める企業・団体に対し、先進的ITを駆使した独創的サービスや機能の提供を通じ社会に貢献する

プラットフォーム事業への取組

多岐にわたる事業多角化

## 会社分割の骨子

分割期日は平成29年10月2日

新会社の商号をイメージ情報システム株式会社としました

新会社は、現在の現業部門を段階的に承継しております

北栄社等へのコンサル事業は持株会社が継続

- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



# 株式会社アイデポルテへの出資・子会社化の目的

## 当社の経営理念

変革を求める企業・団体に対し、先進的ITを駆使した独創的サービスや機能の提供を通じ社会に貢献する

## スポーツ&ヘルスケア事業への取組

これまでエクストップテクノロジー株式会社が培ってきたスポーツ分野におけるIT関連事業とイメージ情報開発が得意としてきた先進メディア・BPO事業を統合することで『スポーツ・健康』をテーマにした、新時代の《ライフスタイル支援型IT企業》を創生することを目的に、当社はエクストップテクノロジー社の子会社であるエクストップエスオー社(現株式会社アイデポルテ)の第三者割当に応じ、50%の株式を保有することで連結子会社化をいたしました。

出資にあたり、同社の代表取締役には当社取締役である長峰貴博氏が就任いたしました。

- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



# 平成29年3月期の通期業績予想【連結】

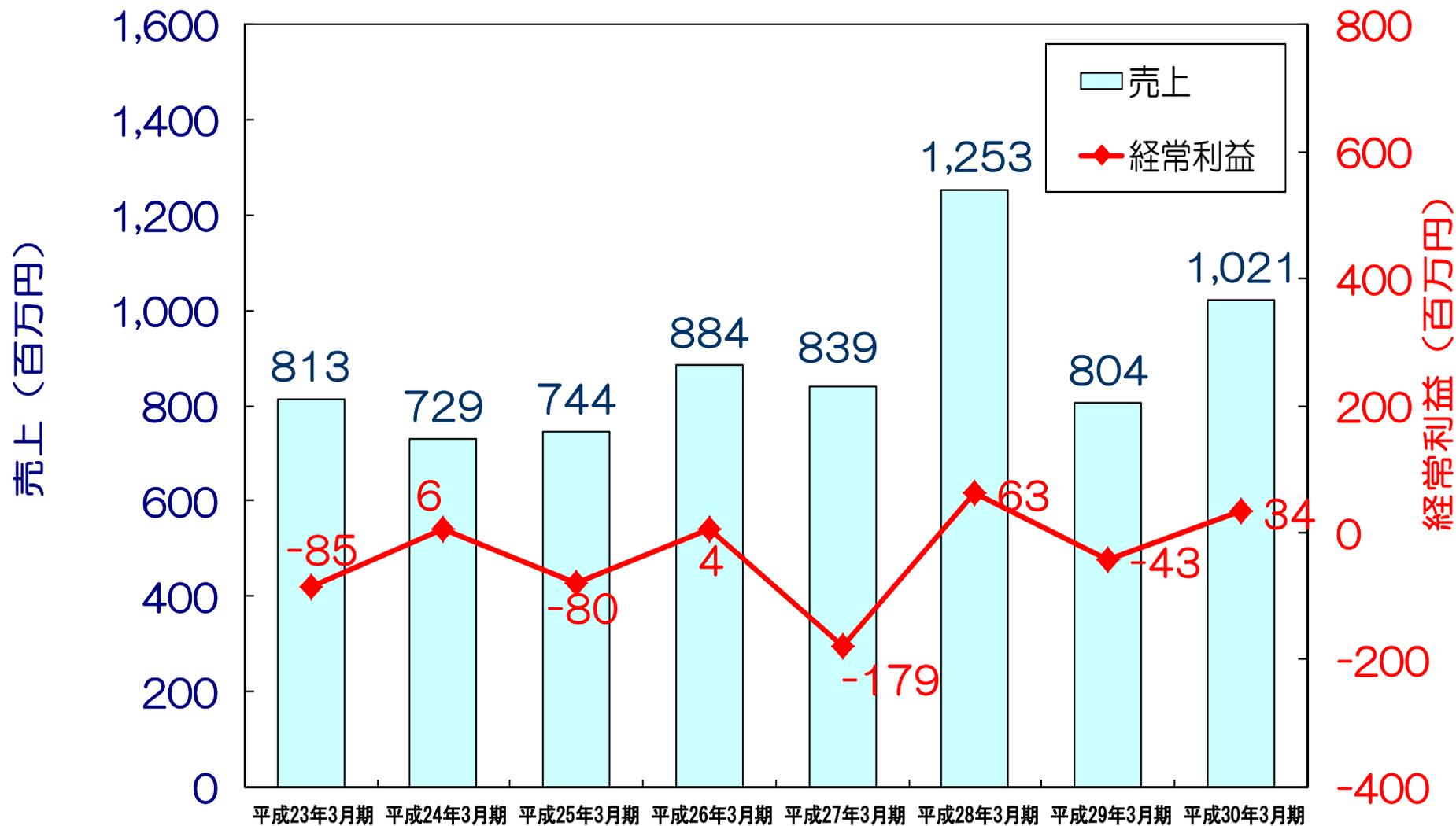
(単位：百万円)

	平成29年3月期 (実績)	平成30年3月期 通期予想			
		上期 (実績)	下期	通期	増減率(%)
売上高	804	416	605	1,021	27.0
営業利益	△49	5	29	34	—
経常利益	△42	6	28	34	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△255	△308	18	△290	—

## 通期に向けた課題と主な取り組み

- 新設分割会社であるイメージ情報システムの体制の確立
- 同社の事業規模拡大と利益率改善に向けての経営サポート
- 新規連結子会社であるアイデポルテとの連携体制の確立

# 業績推移



- I グループ概要
- II 平成30年3月期 第2四半期期決算概要
- III 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- IV 新設会社分割の状況
- V アイデポルテを連結子会社化
- VI 平成30年3月期 通期の見通し
- VII 今後の中期戦略



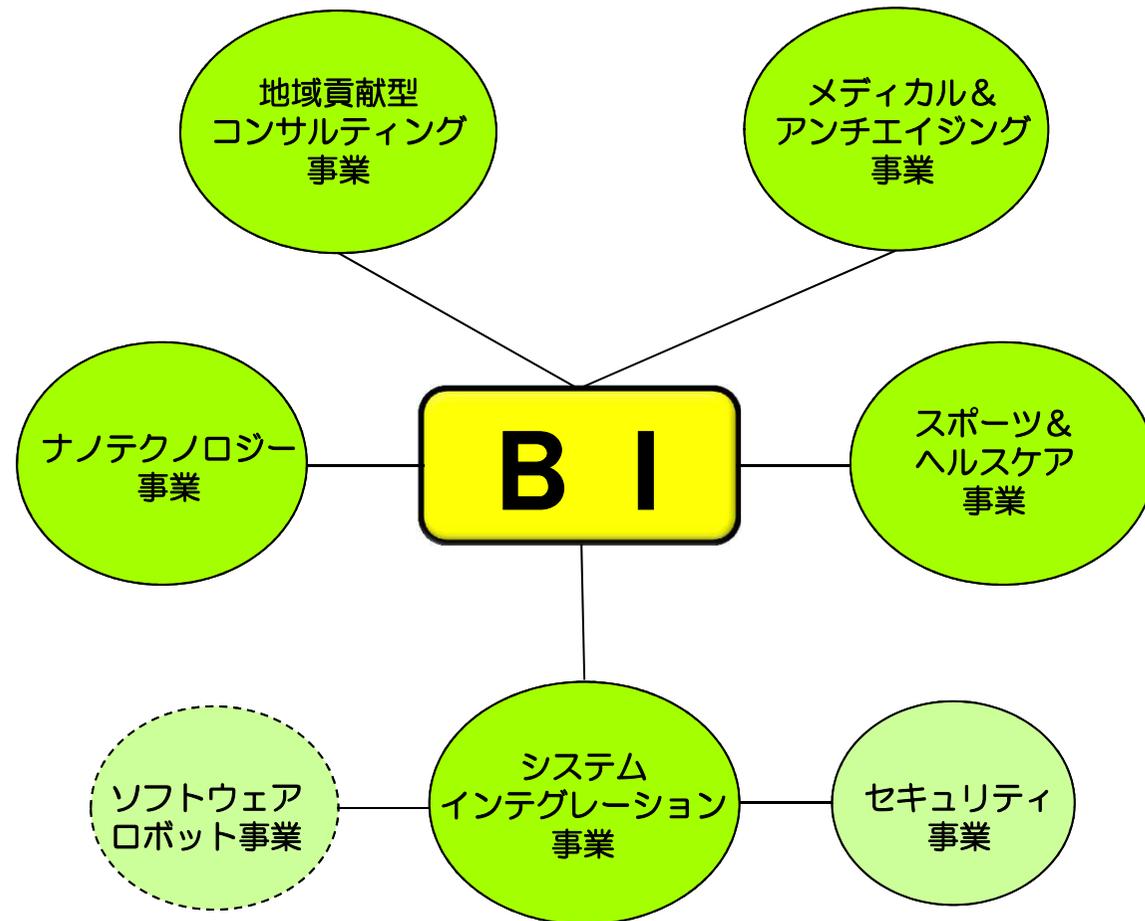
激動する経済社会の下、顧客企業に対する「先進的ビジネスモデルの提供」を目的に既存の中核技術をベースに他分野の知識や技術を組み合わせた多岐にわたるビジネスの「プラットフォーム」の構築に着手しました。  
ヒト/モノ/カネ/情報をネットワーク化し、組織やサービスを束ね、顧客企業と共に永続的成長を目指した「プラットフォームビジネス」を経営テーマにして成長してまいります。

あらゆる分野の特異性を有する諸企業との提携や、さらに必要に応じてM&Aも実施し、中長期にわたる本格的成長を目指してまいります。

## 「システムインテグレーター」から「ビジネスインテグレーター」へ

ビジネスインテグレーションとは、革新著しいITを駆使した新機能やサービスを統合し、新しいビジネスモデルを創出することを意味します。

私たちは、これからの未来に向けて、独創的で高付加価値なサービス、製品を実現するため、様々なビジネスプラットフォームの構築に着手しています。



## 成長ビジネスへの積極転換(1)

### 1. コアビジネスの規模・機能の大幅拡充(システムインテグレーション事業)

#### 「ビジネスインテグレーション」の実現を目指して

さまざまな経営やシステムの課題は、個別に考えるのではなく、常に同時にデザインし、相乗効果を最大限に発揮させることが必須となります。例えば、近年企業の課題となっているコンプライアンス（法令遵守）やセキュリティ対策においても、単にやらなければならないこと、コストアップ要因としてとらえるのではなく、企業全体の最適化の一環としてとらえ、業務プロセスやシステムの改善も同時にすすめ、トータルでのコストダウンや競争力の強化に結びつけるべきです。

当社は、企業のITパートナーとして、特定ベンダや製品に依存しない中立な立場をとり、戦略からシステム構築、構築後の運用や事業戦略に沿ったその後の拡張に至るまで、これらを総合的に支援し、最適な経営環境を実現する、先進ITを駆使するビジネスインテグレーションを実現いたします。

## 成長ビジネスへの積極転換(2)

### 2.地域貢献型コンサル事業の長期継続的成長（沖縄北栄等）

### 3.先行投資事業の拡大・収益化(メディカル&アンチエイジング事業)

#### 「メディカル&アンチエイジングモール銀座」を展開しています

私たちは、医療、健康、癒しのサービス事業者が集結する複合モールを東京・銀座で展開しています。不動産の賃貸のほか、予約管理、集客支援、販売商品の提供や開発支援など、他企業とのアライアンスにより、スタートアップのお客様でも起業に必要な様々な機能をオールインワンでご提供いたします。

また本モールは、スタートアップの皆様を支援する機能だけでなく、不動産オーナーの方々へ不動産の有効活用をコンサルティングするショールームとしても機能しており、全国への拠点拡大を図ってまいります。

## 新規分野へのチャレンジ

### 1. ナノテクノロジー事業

#### 人・動物の殺菌・防臭・脱色などの悩みを、ナノレベルの技術で解決する

現在、世界は抗生物質の蔓延により、ウイルスは耐性を高め、一説では2050年に世界で1,000万人が死亡すると言われ、日本政府も2020年までに抗生物質を30%削減することを発表しました。

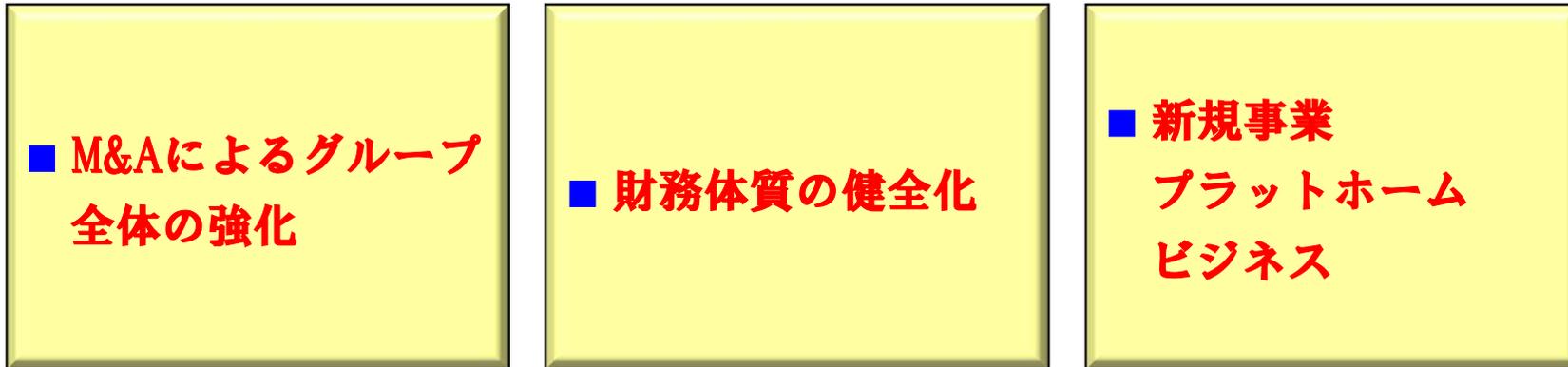
私たちは、抗生物質やステロイドに代わる殺菌剤としてオゾンに着目。当社グループ化を検討している株式会社ブイエムシーは、腐食性が高く有毒な気体とされるオゾンを数十年にわたる研究開発により安全かつ安心なジェルへの封入に成功。

数多くの特許も取得し、様々な企業に製品をライセンス提供しているオゾン業界のパイオニアです。

### 2. ソフトウェア・ロボット事業

## グループ化経営の強化

## 成長ビジネスへの積極転換



## 急成長企業に向けて飛躍

### 東証2部上場を目指す

- 財務体質の速やかな改善
- ビジネス規模の大幅拡大
- 東証2部上場基準のクリア
  - ・ 時価総額の拡大
  - ・ 株主数、総株式数、浮動株式数の増大



本日は、ありがとうございました。

## <お問い合わせ先>

担当窓口： イメージ情報開発株式会社

常務取締役 経営管理室長 佐藤 将夫

TEL : 03 - 5217 - 7811

FAX : 03 - 5217 - 7816

URL : <http://www.image-inf.co.jp/>

本資料には、将来にわたる見通しに関する記述が含まれております。これらは現時点での予測であり、実際の業績は、今後の経済動向やその他の社会・政治情勢など様々なリスクや不確定要素により、見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。